

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(10) 国際公開番号

WO 2011/122305 A2

PCT

(43) 国際公開日
2011 年 10 月 6 日(06.10.2011)

- (51) 国際特許分類:
B65D 83/00 (2006.01) B65D 85/76 (2006.01)
B65D 65/26 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2011/055770
- (22) 国際出願日: 2011 年 3 月 11 日(11.03.2011)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2010-077645 2010 年 3 月 30 日(30.03.2010) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社明治(Meiji Co., Ltd.) [JP/JP]; 〒1368908 東京都江東区新砂一丁目 2 番 10 号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 玉井茂 (TAMAI Shigeru) [JP/JP]; 〒2500862 神奈川県小田原市成田 5 4 0 明治乳業株式会社研究本部内 Kanagawa (JP). 中坪正 (NAKATSUBO Tadashi)

[JP/JP]; 〒2500862 神奈川県小田原市成田 5 4 0 明治乳業株式会社研究本部内 Kanagawa (JP).

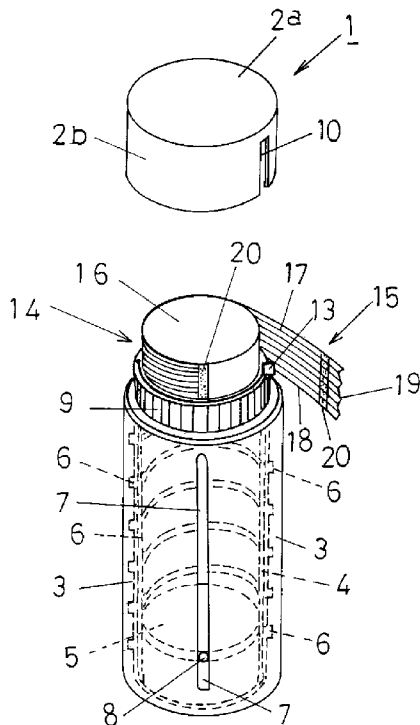
- (74) 代理人: 鈴木正次, 外 (SUZUKI Shoji et al.); 〒1600022 東京都新宿区新宿 1-10-3 太田紙興新宿ビル 9 階 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ

[続葉有]

(54) Title: CYLINDRICAL FOODSTUFF AND CYLINDRICAL FOODSTUFF CONTAINER THAT CONTAINS SAME

(54) 発明の名称: 円柱状食品及びこれを収容する円柱状食品収容具

[図1]



(57) Abstract: Provided is a foodstuff container that presses and uses cylindrical foodstuffs contained in a cylindrical foodstuff container and a cylindrical foodstuff receptacle where cylindrical foodstuff is contained within said container. The foodstuff container is formed from: an outer sleeve that has a helical structure formed in the inner wall thereof; an inner sleeve at the upper end opening that is rotatably fitted within the outer sleeve and in which vertical grooves perforate the peripheral wall; and a support board that is equipped with projections, the tips of which penetrate the inner sleeve grooves from the inner side to the outer side of said sleeve and are inserted into the helical structure of the outer sleeve. Due to rotation of the inner sleeve, the support board moves up and down within the inner sleeve. The cylindrical foodstuff is contained in said foodstuff container and loaded on the support board. The peripheral wall of the cylindrical foodstuff is covered by a tubular wrapping material, which can be cut at any point lengthwise but only in the circumferential direction.

(57) 要約: 円柱状の食品収容具に収容されている円柱状食品を押し出して使用する形態の食品収容具及びこれに円柱状食品が収容されている円柱状食品容器。内周壁に螺旋溝条が形成されている外筒と、周壁を貫通して上下方向に延びる縦溝条が周壁に形成されていて外筒内に回転可能に装着される上端開口の内筒と、内筒内に装着され内筒の縦溝条を内筒の内側から外側に向かって貫通して外筒の螺旋溝条に先端が挿入される突起部を備えている支持板とからなり、内筒を回転させることにより支持板が内筒内を上下方向に移動する食品収容具。当該食品収容具に収容されて支持板上に載置される円柱状の食品であって、円柱状の食品の周壁が筒状の包装材によって被覆されており、当該筒状の包装材は長手方向における任意の箇所、周方向にのみ切除可能になっている。



(AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR,
GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT,
NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI
(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR,
NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告なし；国際調査報告を受け取り
次第公開される。（規則 48.2(g)）

明 細 書

発明の名称：円柱状食品及びこれを収容する円柱状食品収容具 技術分野

[0001] この発明は円柱状食品に関し、特に、円柱状の食品を収容する円柱状食品容器と、当該円柱状食品容器に収容されていて使い勝手のよい円柱状食品及び、その収容具に関する。

背景技術

[0002] 円柱状の食品を収容する円柱状食品容器と、当該円柱状食品容器に収容されている円柱状食品及び、その収容具に関しては従来から種々の提案がされている。

[0003] 例えば、特許文献１、２には円柱状の食品容器に収容されているバターを、使用時に手を汚さず、簡便で、衛生的に使用する目的で押し出し式のスティックバターが提案されている。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献１：実開昭６２－６０６７８号公報

特許文献２：特開２００１－２３３３８８号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005] 特許文献１、２に記載されている円柱状の食品を収容する円柱状食品容器及び、これに食品が収容されている円柱状の食品は、いずれもスティック状（円柱状）のバター収容具に収容されている円柱状のバターを押し出して使用する形態のものである。これらは、商品として市販するにあたってスティック状のバター収容具にバターを充填するための手間や設備、その際の衛生面での配慮、等が必要であった。また、スティック状のバター収容具に収容されているバターを消費者が使い切った後に、再度、そのスティック状バター収容具を使用する場合には消費者自らがバターの充填を行う必要があった

。

[0006] そこで、この発明は、円柱状の食品を収容する円柱状食品容器と、当該円柱状食品容器に収容されている円柱状食品及び、その収容具を消費者にとってより使い易く、使い勝手のよいものにすることを目的にしている。

課題を解決するための手段

[0007] 請求項 1 記載の発明は、
内周壁に螺旋状に螺旋溝条が形成されている上端開口で下端が有底の外筒と、

周壁を貫通して上下方向に延びる縦溝条が周壁に形成されていて、前記外筒内に回転可能に装着される上端開口の内筒と、

前記内筒内に装着され、前記内筒の縦溝条を前記内筒の内側から外側に向かって貫通して前記外筒の内周壁に形成されている螺旋溝条に先端が挿入される突起部を備えている支持板とを備えてなり、

前記内筒を前記外筒内で回転させることにより、前記突起部の先端が前記外筒の内周壁に形成されている螺旋溝条に挿入されている前記支持板が、前記螺旋溝条及び前記内筒の縦溝条に案内されて前記内筒内を上下方向に移動する

食品収容具である。

[0008] 請求項 2 記載の発明は、
前記内筒の上端開口に食品切除具が備えられていることを特徴とする請求項 1 記載の食品収容具である。

[0009] 請求項 3 記載の発明は、
前記食品切除具は、前記内筒の上端開口を形成する周壁上面の一点を支点として回転可能に前記内筒の周壁上面に支持され、前記周壁上面を少なくとも半周以上の長さに亘って円弧状に延びる線状の切断具からなることを特徴とする請求項 2 記載の食品収容具である。

[0010] 請求項 4 記載の発明は、
請求項 1 乃至 3 のいずれか一項記載の食品収容具に収容されて前記支持板

上に載置される円柱状の食品であって、円柱状の食品の周壁が筒状の包装材によって被覆されており、当該筒状の包装材は長手方向に延びる接合箇所において周壁が接合されていると共に、周方向に延びる切離可能部を当該筒状の包装材の長手方向において複数備えており、当該切離可能部で当該筒状の包装材を周方向に切除可能になっていることを特徴とする円柱状食品である。

[0011] 請求項 5 記載の発明は、

前記切離可能部は、前記筒状の包装材の周方向に延びる切り込み線、又は、円周状溝条であることを特徴とする請求項 4 記載の円柱状食品である。

[0012] 請求項 6 記載の発明は、

請求項 1 乃至 3 のいずれか一項記載の食品収容具に収容されて前記支持板上に載置される円柱状の食品であって、円柱状の食品の周壁が筒状の包装材によって被覆されており、当該筒状の包装材は周方向にのみ延伸している一軸延伸フィルムからなり、長手方向に延びる接合箇所において周壁が接合されていて、長手方向における任意の箇所で周方向に切除可能になっていることを特徴とする円柱状食品である。

[0013] 請求項 7 記載の発明は、

請求項 4 乃至 6 のいずれか一項記載の円柱状食品が請求項 1 乃至 3 のいずれか一項記載の食品収容具に収容されて前記支持板上に載置されてなる円柱状食品容器である。

発明の効果

[0014] この発明によれば、円柱状の食品を収容する円柱状食品容器と、当該円柱状食品容器に収容されている円柱状食品及び、その収容具を消費者にとってより使い易く、使い勝手のよいものにすることができる。

図面の簡単な説明

[0015] [図1]本発明の円柱状食品容器の使用状態を説明する斜視図。

[図2]本発明の円柱状食品容器を説明する斜視図であって、（a）は使用開始前、（b）はキャップをはずした状態、（c）は本発明の円柱状食品収容具

に收容されていた本発明の円柱状食品が上方に押し出された状態を表す斜視図。

[図3]本発明の円柱状食品收容具を構成する外筒、内筒、支持板を説明する図であって、(a)は外筒の内周壁を表す一部を省略した正面図、(b)は内筒の一部を省略した斜視図、(c)は支持板の平面図、(d)は他の支持板の平面図。

[図4]本発明の円柱状食品に採用される筒状の包装材を説明する図であって、(a)は一部を省略した斜視図、(b)は図4(a)図示の包装材が切離可能部で切除される状態を説明する一部を省略した斜視図、(c)は他の包装材の一部を省略した斜視図、(d)は図4(c)の包装材を他の方向から見た一部を省略した斜視図、(e)は図4(a)図示の包装材が採用されている本発明の円柱状食品の一部を省略した斜視図、(f)は図4(c)、(d)図示の包装材が採用されている本発明の円柱状食品の一部を省略した斜視図。

[図5]本発明の円柱状食品收容具に採用される食品切除具の一例を説明する図であって、(a)は内筒の上側から見た平面図、(b)は円柱状食品を切除する動作を終えた状態を説明する内筒の上側から見た平面図。

発明を実施するための形態

[0016] この発明の食品收容具は、外筒と、当該外筒内に回転可能に装着される内筒と、当該内筒内に装着される支持板とから構成されている。

[0017] 外筒は、上端開口で下端が有底であって、内周壁に螺旋状に螺旋溝条を備えている。

[0018] 内筒は、上端が開口していて、その周壁を貫通して上下方向に延びる縦溝条を周壁に備えており、前記外筒内に回転可能に装着されるものである。

[0019] そして、前記内筒内に装着される支持板は、前記内筒の縦溝条を前記内筒の内側から外側に向かって貫通し、前記外筒の内周壁に形成されている螺旋溝条に先端が挿入される突起部を備えている。

[0020] このようにして構成されている本発明の食品收容具では、前記内筒を前記

外筒内で回転させることにより、前記突起部の先端が前記外筒の内周壁に形成されている螺旋溝条に挿入されている前記支持板が、前記螺旋溝条及び前記内筒の縦溝条に案内されて前記内筒内を上下方向に移動する。

[0021] そこで、前記内筒内に円柱状の食品を収容し、前記支持板上に載置しておけば、支持板の上下方向移動に伴って、内筒内に収容されている円柱状の食品を内筒の先端（上側の端）の開口から出沒させて使用することができる。

[0022] 内筒の周壁に形成されている前述した縦溝条を、周方向に間隔を空けて複数形成しておくと共に、支持板に配備されている前記突起部も内筒周壁の縦溝条をそれぞれ貫通するように、周方向に間隔を空けて複数形成されている形態にし、当該複数個の突起部の先端がそれぞれ前記外筒の内周壁に形成されている螺旋溝条に挿入されている形態にすることもできる。

[0023] このようにすれば、外筒内で内筒が回転することにより、支持板が螺旋溝条及び内筒の縦溝条に案内されて内筒内を上下方向に移動する動作をより安定させて行わせることができる。

[0024] 前述した本発明の食品収容具は、前記内筒の上端開口に食品切除具が備えられている構造にすることができる。

[0025] このようにすると、前述したように、内筒の先端（上側の端）の開口から押し出された円柱状の食品の内筒先端開口から突出している部分のみを切除して使用することができるので有利である。

[0026] 本発明の食品収容具では、外筒、内筒のサイズ、内筒に収容される円柱状食品のサイズがあらかじめ定められているので、内筒を何回転したときに何gの円柱状食品が内筒の先端開口から突出するか定まる。そこで、料理レシピにしたがって円柱状食品を使用するときに、必要なg数に相当するだけ内筒を回転させ、前記食品切除具を使用して、円柱状食品の内筒先端開口から突出している部分を切除し、手を汚さずに、衛生的に、必要な分量の円柱状食品を使うことができる。

[0027] 前記食品切除具は、前記内筒の上端開口を形成する周壁上面の一点を支点として回動可能に前記内筒の周壁上面に支持され、前記周壁上面を少なくとも

も半周以上の長さに亘って円弧状に延びる線状の切断具からなる構造にすることができる。

[0028] このようにすれば、前述したように、円柱状食品の内筒先端開口から突出している部分を手を汚さずに、衛生的に切除して使用する上で有利である。

[0029] 本発明が提案する円柱状食品容器は、前記で説明した本発明の食品収容具に円柱状の食品が収容されて前記支持板上に載置されているものであるが、この円柱状の食品としては次のような構造のものを採用できる。

[0030] 例えば、円柱状の食品の周壁が筒状の包装材によって被覆されており、当該筒状の包装材は長手方向に延びる接合箇所において周壁が接合されていると共に、周方向に延びる切離可能部を当該筒状の包装材の長手方向において複数備えており、当該切離可能部で当該筒状の包装材を周方向に切除可能になっている円柱状食品である。

[0031] この場合、切離可能部は、前記筒状の包装材の周方向に延びる切り込み線、又は、円周状溝条にすることができる。

[0032] あるいは、円柱状の食品の周壁が筒状の包装材によって被覆されており、当該筒状の包装材は周方向にのみ延伸している一軸延伸フィルムからなり、長手方向に延びる接合箇所において周壁が接合されていて、長手方向における任意の箇所で周方向に切除可能になっている円柱状食品である。

[0033] ここで、前記の円柱状の食品としては、バター、マーガリン、スプレッド、その他固形または可塑性の油脂組成物や、チーズ、等、可塑性を有する食品、アイスクリーム、菓子類（羊羹、ういろうの類）など、円柱状に成形されているものであれば種々の食品を採用することができる。

[0034] また、筒状の包装材としては、食品に使用可能な樹脂材料であればいずれも使用可能で、例えば、PET、ポリスチレン、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニール、これらの組み合わせ、あるいは紙、アルミとの組み合わせ（貼り合わせ）などを使用することができる。

[0035] 前記の円柱状の食品は、前述したように、周壁が筒状の包装材によって被覆され、その上端面、下端面はそれぞれ前記筒状包装材の円柱状食品の上下

端から突出する部分によって被覆され、包装されている状態になっている。

[0036] 前述した形態の円柱状食品によれば、いずれの形態であっても、円柱状の食品は包装されている状態で内筒内に收容されており、内筒の先端（上側の端）の開口から押し出された円柱状食品の内筒先端開口から突出している部分を覆っている筒状の包装材のみを周方向に切除することによって当該部分の円柱状食品を露出させ、前記食品切除具によって切除して使用することができる。

[0037] そこで、消費者は手を汚さずに円柱状の食品を使用して使い切ることが可能であり、使い切った後は、前述したように包装されている新たな円柱状の食品を、本発明の食品收容具の内筒内に收容して支持板上に載置し、これまた、消費者の手を汚すことなく、再度、使用し始めることができる。

[0038] このように、本発明の食品收容具及び、円柱状食品容器によれば、前述したように周壁が筒状の包装材で被覆されている円柱状食品、すなわち、あらかじめ包装されている円柱状食品を、包装されている状態で食品收容具に收容して使用することができる。本発明によれば、このように、あらかじめ包装されている状態の円柱状食品を食品收容具に收容して使用するので、あらかじめ包装されている状態の円柱状食品の詰め替えが可能で、なおかつ、詰め替えを簡便にかつ衛生的に行うことができる。

[0039] そして、内筒内に收容するあらかじめ包装されている円柱状食品を入れ替えるだけで、簡単に詰め替えを行うことができるので、例えば、円柱状食品としてスティック状バターを使用した後、円柱状食品として包装されているスティック状チーズに詰め替えて使用することなども簡単に、かつ、衛生的に行うことができる。

[0040] 従来から存在していた、あらかじめ包装されている円柱状食品の場合、パチ紙などに包装されているものが一般的で、消費者が一部使用した後、包み直すのが面倒であったり、包み直す時に手が汚れる、綺麗に密閉状態に包み直すことが困難である、ということがあった。このため、いったん開封された後の円柱状食品は、その後の保管時に乾燥して色が変わったり、冷蔵庫

のにおいが移ったりして不便である、等の問題があった。

[0041] 本発明の円柱状食品は、前述した本発明の食品収容具に収容されて使用されることから、使用する部分のみの外周を被覆している包装材を切除し、使用する部分のみを円柱状食品から切り取るときに使用者（消費者）の手が汚れるおそれが少なく、なおかつ、衛生的に使用することができる。そして、円柱状食品の未使用部分は最後まで包装材に被覆されている状態で食品収容具の内筒内に収容されて保存されるので、保管時に乾燥して色が変わったり、冷蔵庫のにおいが移る等の問題を未然に防止して、衛生的に保存することができる。

[0042] 以下、添付図面を参照して、本発明の食品収容具、円柱状食品容器に収容される本発明の円柱状食品が円柱状のバター（スティックバター）である場合について、本発明の好ましい実施例を説明するが、本発明はこれに限られること無く、特許請求の範囲の記載から把握される技術的範囲において種々に変更可能である。

実施例 1

[0043] 本発明の食品収容具であるバター収容具は、図1、図2図示のように、外筒3と、外筒3内に回転可能に装着される内筒4と、内筒4内に装着される支持板5とから構成されている。

[0044] 外筒3は、下端が有底で、上端が開口していて、図3（a）に一例を示すように、内周壁に螺旋状に螺旋溝条6を備えている。

[0045] 内筒4は、図3（b）図示のように、上端が開口していて、その周壁を貫通して上下方向に延びる縦溝条7を周壁に備えている。内筒4は外筒3の上端開口から外筒3内に装着され、図2（b）に矢印31、32で示すように、外筒3内に装着された状態で回転可能になっている。

[0046] 内筒4は、上端側に摘み部9を備えており、外筒3内に内筒4を装着したときに摘み部9が図2（b）図示のように外筒3の上端から突出し、この摘み部9を摘まんで、内筒4を外筒3内で矢印31、32で示すように回転させることができる。

- [0047] 内筒 4 内に装着される支持板 5 は、内筒 4 の縦溝条 7 を内筒 4 の内側から外側に向かって貫通し、外筒 3 の内周壁に形成されている螺旋溝条 6 に先端が挿入される突起部 8 を備えている（図 3（c））。
- [0048] 内筒 3 が外筒 4 内で矢印 3 1、あるいは矢印 3 2 方向に回転すると、螺旋溝条 6 の傾斜方向に応じて、突起部 8 の先端が螺旋溝条 6 に挿入されている支持板 5 が、螺旋溝条 6 及び縦溝条 7 に案内されて、矢印 2 5、あるいは矢印 3 6 で示すように内筒 3 内を上下方向に移動する。
- [0049] なお、内筒 3 の周壁に形成されている縦溝条 7 は、周方向に間隔を空けて複数形成しておくことができる。この場合、支持板 5 に配備されている突起部も内筒 3 の周壁の複数本縦溝条をそれぞれ貫通するように、周方向に間隔を空けて複数形成されている形態にする。例えば、図 3（d）図示のように、円盤状の支持板 5 に直径対称的に突起部 8 a、8 b が上下方向（図 2（b）、（c）中、上下の方向）に間隔を空けて配備されていて、この突起部 8 a、8 b の先端が、内筒 3 の周壁に直径対称的に形成されている 2 本の縦溝条をそれぞれ貫通し、外筒 3 の内周壁に形成されている螺旋溝条 6 の上下方向の異なる高さ位置に、それぞれ、挿入されている構造にすることができる。
- [0050] このようにすれば、外筒 4 内で内筒 3 が回転することにより、支持板 5 が螺旋溝条 6 及び縦溝条 7 に案内されて内筒 3 内を上下方向に移動する動作が安定する。
- [0051] 内筒 4 の上端開口には食品切除具であるバター切除具 2 1 が備えられている。図示の実施形態では、バター切除具 2 1 は、図 5 図示のように、内筒 4 の上端開口を形成する周壁上面の一点を支点 1 0 として矢印 3 3、3 4 で示すように回動可能に内筒 4 の周壁上面に支持され、内筒 4 の周壁上面を少なくとも半周以上の長さに亘って円弧状に延びる線状の切断具 1 2 から構成されている。
- [0052] 図 5（a）図示の状態から、切断具 1 2 の先端に備えられているノブ 1 3 を持ってバター切除具 2 1 を矢印 3 3 方向に回転させて図 5（b）図示の状

態にすると、内筒 4 の上端開口から上方に突出していた円柱状のバター 1 6 を切除することができる。図 5 (b) 中、符号 1 6 a で示す部分は、内筒 4 の上端開口から上方に突出していた円柱状のバター 1 6 が切除された後の切断面である。切除終了後は、バター切除具 2 1 を、ノブ 1 3 を持って矢印 3 4 方向に回転させて図 5 (a) 図示の状態に戻す。

[0053] 円柱状のバター 1 6 を切除するため、切断具 1 2 は、前述したように、支点 1 0 から内筒 4 の周壁上面を少なくとも半周以上の長さに亘って円弧状に延びる構造にすることが望ましい。

[0054] 線状の切断具 1 2 を採用することによって、図 2 (a) 図示のように、スティックバター容器 3 0 にキャップ 1 を被せている際に密封性を向上させることができる。

[0055] この場合、キャップ 1 は、図 1 図示のように、円盤状の頂板 2 a と、頂板 2 a の周縁から垂下する周壁 2 b とを備えていて、周壁 2 b に、バター切除具 2 1 のノブ 1 3 が挿通できる溝条 1 0 が形成されているものを使用できる。

[0056] 以上説明したように、外筒 3、内筒 4、支持板 5 とからで構成される本発明のバター収容具は、内筒 4 内に円柱状食品である円柱状のスティックバター 1 4 を収容し、支持板 5 上に載置して、スティックバター容器 3 0 (円柱状食品容器) として使用される。

[0057] スティックバター 1 4 は、図 4 (e)、(f) に一例を示すように、円柱状のバター 1 6 の周壁が筒状の包装材 1 5 によって被覆されているものを使用できる。筒状の包装材 1 5 は、図 4 (a) ~ (d) に一例を示すように、長手方向に延びる接合箇所 2 0 において周壁が接合されていると共に、周方向に延びる切離可能部 1 7、1 8 を筒状の包装材 1 5 の長手方向において複数備えているものである。そこで、図 4 (b) 図示のように、接合箇所 2 0 に設けられている耳部 1 9 を掴まんで周方向に引っ張ると、所定の切離可能部 1 8 で筒状の包装材 1 5 を周方向に切除することができる。

[0058] 図 4 (a)、(b)、(e) は 接合箇所 2 0 に設けられている耳部 1 9

が片耳タイプの場合、図4（c）、（d）、（f）は 接合箇所20に設けられている耳部19が両片タイプの場合を説明するものである。

[0059] 周方向に延びる切離可能部17、18の形態としては、筒状の包装材15の周方向に延びる切り込み線、又は、円周状溝条を採用することができる。

[0060] また、図示していないが、円柱状のバター16の周壁を被覆する筒状の包装材15として、周方向にのみ延伸している一軸延伸フィルムを採用し、これが、長手方向に延びる接合箇所20において接合されているものを採用することもできる。筒状の包装材15が周方向にのみ延伸している一軸延伸フィルムであることから、図4（b）に例示したものと同様に、周方向にのみ切除可能になる。しかも、前述した実施形態のように、周方向に延びる切離可能部17、18が形成されている箇所限定されることなく、筒状の包装材15の長手方向における任意の箇所で周方向に切除することができる。

[0061] 以上に説明したように、周方向にのみ方向性を持って切除可能な筒状の包装材15によって円柱状のバター16の周壁が被覆されている円柱状のスティックバター14が、内筒4内に收容されて支持板5上に載置されている本発明のスティックバター容器30は、次のようにして使用される。

[0062] 図2（a）図示の状態から、キャップ1を外し、内筒4の摘み部9を摘まんで、内筒4を外筒3内で矢印31方向に回転させる（図2（b））。これによって、突起部8の先端が外筒3の内周壁に形成されている螺旋溝条6に挿入されている支持板5は、螺旋溝条6及び内筒4の縦溝条7に案内されて内筒3内を矢印35で示すように上昇し、支持板5に下端が支持されているスティックバター14の上端が内筒4の上端開口から突出する（図2（c））。

[0063] この状態で、内筒4の上端開口かから突出している部分（円柱状のバター16）を被覆している筒状の包装材15の部分のみを、耳部19を摘まんで図1に示すように周方向に切除する。

[0064] そして、図5（a）、（b）に示すように、切断具12の先端に備えられているノブ13を持ってバター切除具21を矢印33方向に回転させて、内

筒 4 の上端開口から上方に突出していて、周壁を被覆していた包装材 1 5 が
切除されたバター 1 6 を切り取って使用する。

[0065] なお、使用完了後、内筒 3 を矢印 3 2 方向に回転させ、支持板 5 を内筒 3
内で矢印 3 6 方向に下降させ、スティックバター 1 4 の未使用部分を内筒 3
内の下側に移動させることができる。

符号の説明

- [0066] 3 外筒
4 内筒
5 支持板
6 螺旋溝条
7 縦溝条
9 内筒の摘み部
8 突起部
2 1 バター切除具
1 0 バター切除具の支点
1 2 線状の切断具
1 3 切断具のノブ
1 6 円柱状のバター
3 0 スティックバター容器
1 4 円柱状のスティックバター
1 5 筒状の包装材
2 0 包装材の接合箇所
1 7、1 8 周方向に延びる切離可能部

請求の範囲

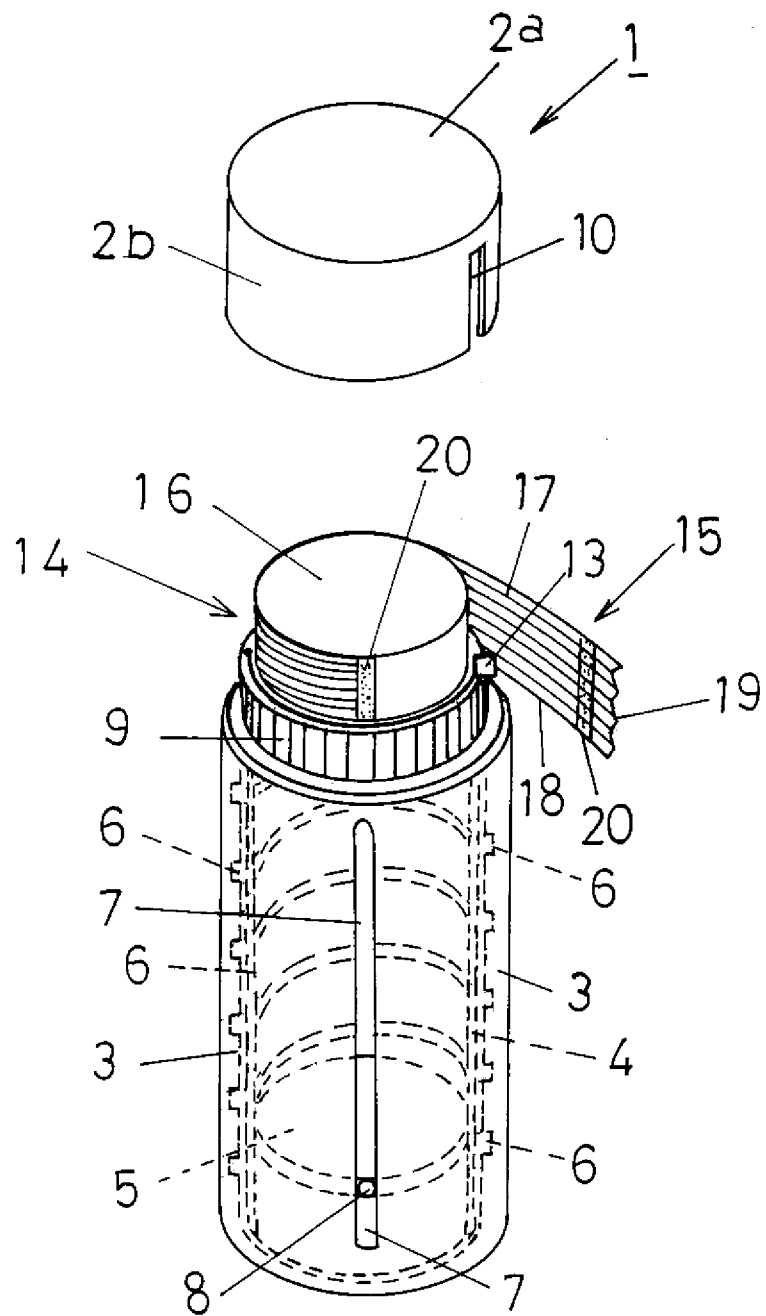
- [請求項1] 内周壁に螺旋状に螺旋溝条が形成されている上端開口で下端が有底の外筒と、
周壁を貫通して上下方向に延びる縦溝条が周壁に形成されていて、前記外筒内に回転可能に装着される上端開口の内筒と、
前記内筒内に装着され、前記内筒の縦溝条を前記内筒の内側から外側に向かって貫通して前記外筒の内周壁に形成されている螺旋溝条に先端が挿入される突起部を備えている支持板とを備えてなり、
前記内筒を前記外筒内で回転させることにより、前記突起部の先端が前記外筒の内周壁に形成されている螺旋溝条に挿入されている前記支持板が、前記螺旋溝条及び前記内筒の縦溝条に案内されて前記内筒内を上下方向に移動する
食品収容具。
- [請求項2] 前記内筒の上端開口に食品切除具が備えられていることを特徴とする請求項 1 記載の食品収容具。
- [請求項3] 前記食品切除具は、前記内筒の上端開口を形成する周壁上面の一点を支点として回動可能に前記内筒の周壁上面に支持され、前記周壁上面を少なくとも半周以上の長さに亘って円弧状に延びる線状の切断具からなることを特徴とする請求項 2 記載の食品収容具。
- [請求項4] 請求項 1 乃至 3 のいずれか一項記載の食品収容具に収容されて前記支持板上に載置される円柱状の食品であって、円柱状の食品の周壁が筒状の包装材によって被覆されており、当該筒状の包装材は長手方向に延びる接合箇所において周壁が接合されていると共に、周方向に延びる切離可能部を当該筒状の包装材の長手方向において複数備えており、当該切離可能部で当該筒状の包装材を周方向に切除可能になっていることを特徴とする円柱状食品。
- [請求項5] 前記切離可能部は、前記筒状の包装材の周方向に延びる切り込み線、又は、円周状溝条であることを特徴とする請求項 4 記載の円柱状食

品。

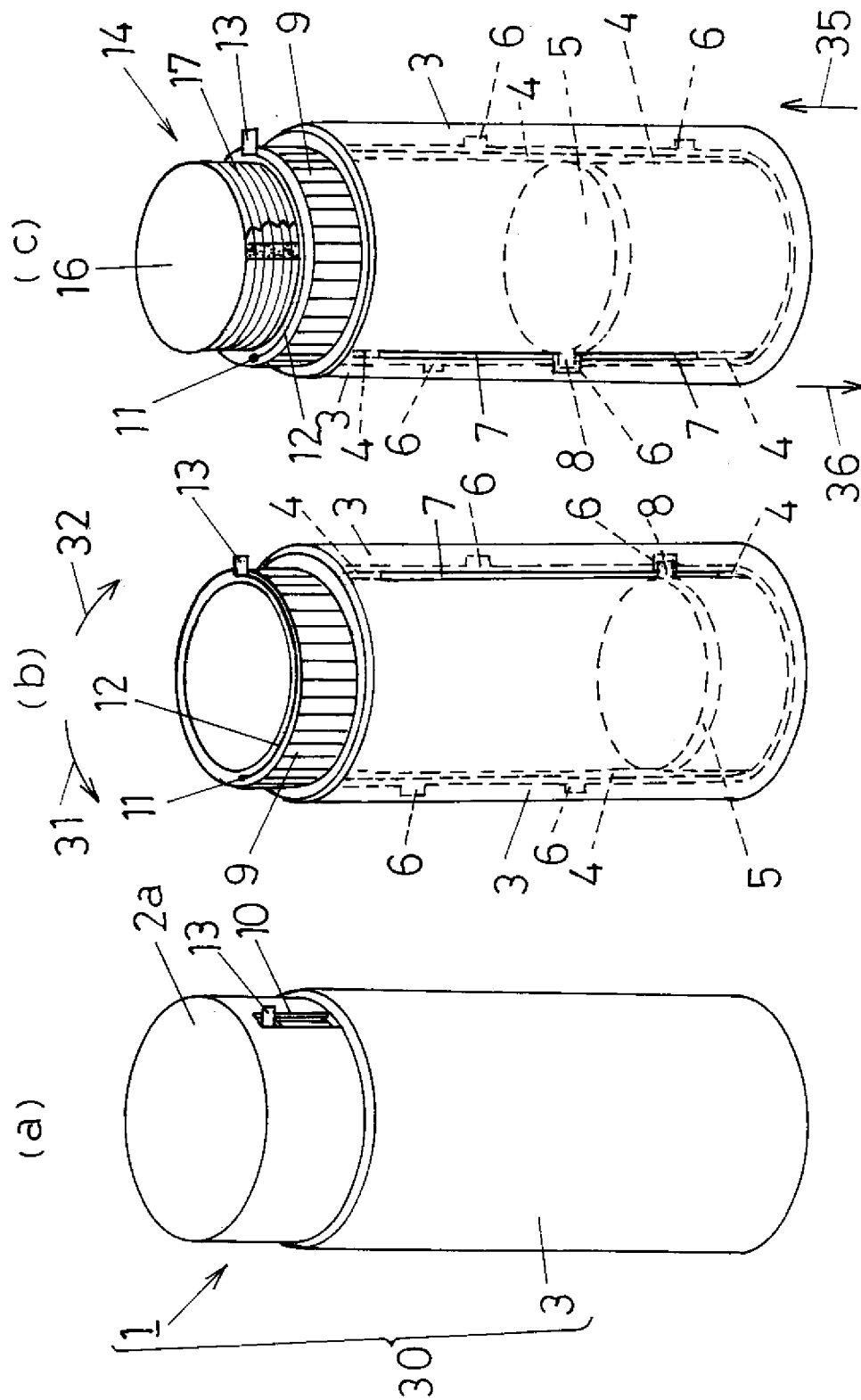
[請求項6] 請求項 1 乃至 3 のいずれか一項記載の食品収容具に收容されて前記支持板上に載置される円柱状の食品であって、円柱状の食品の周壁が筒状の包装材によって被覆されており、当該筒状の包装材は周方向にのみ延伸している一軸延伸フィルムからなり、長手方向に延びる接合箇所において周壁が接合されていて、長手方向における任意の箇所で周方向に切除可能になっていることを特徴とする円柱状食品。

[請求項7] 請求項 4 乃至 6 のいずれか一項記載の円柱状食品が請求項 1 乃至 3 のいずれか一項記載の食品収容具に收容されて前記支持板上に載置されてなる円柱状食品容器。

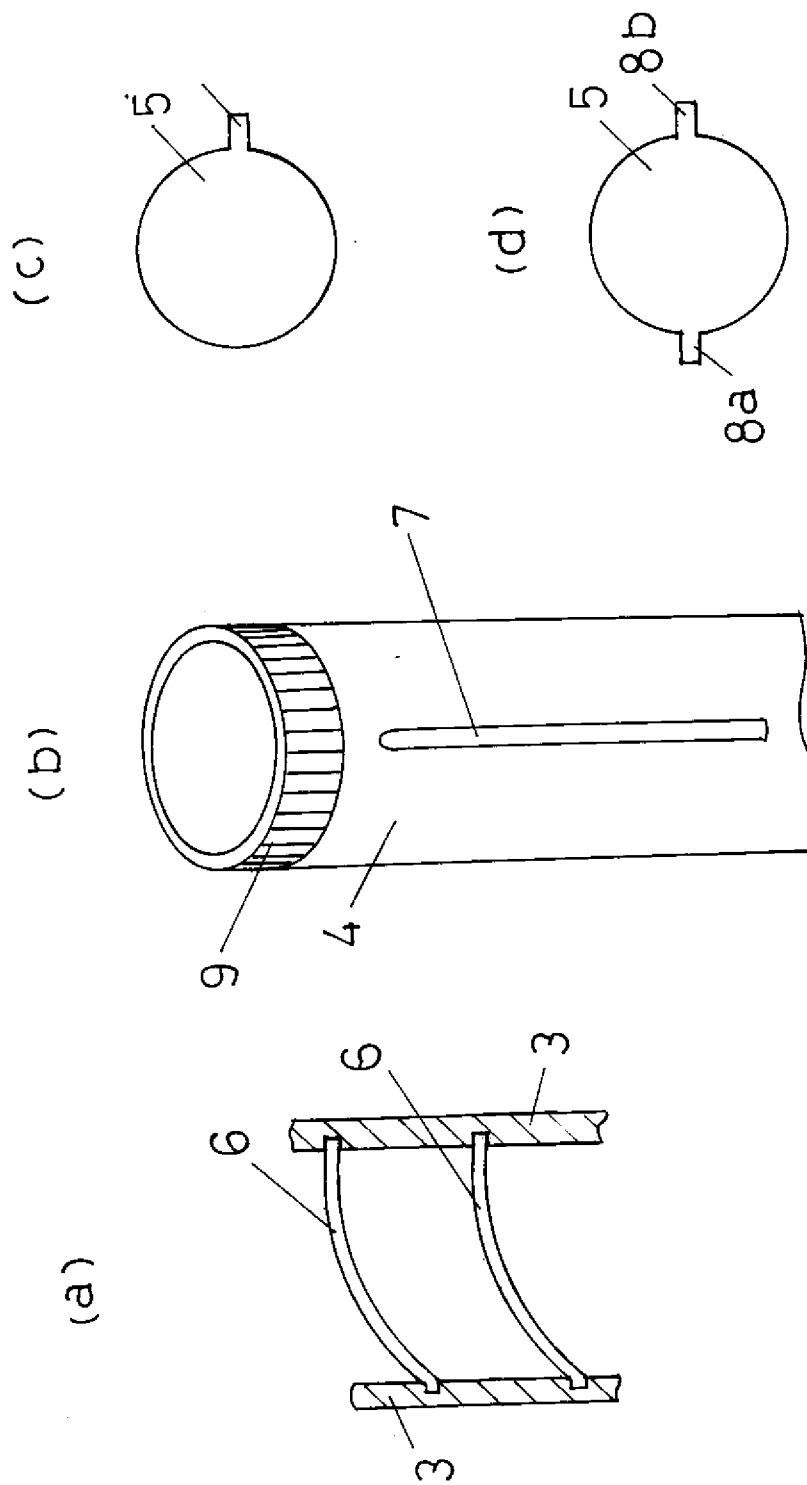
[図1]



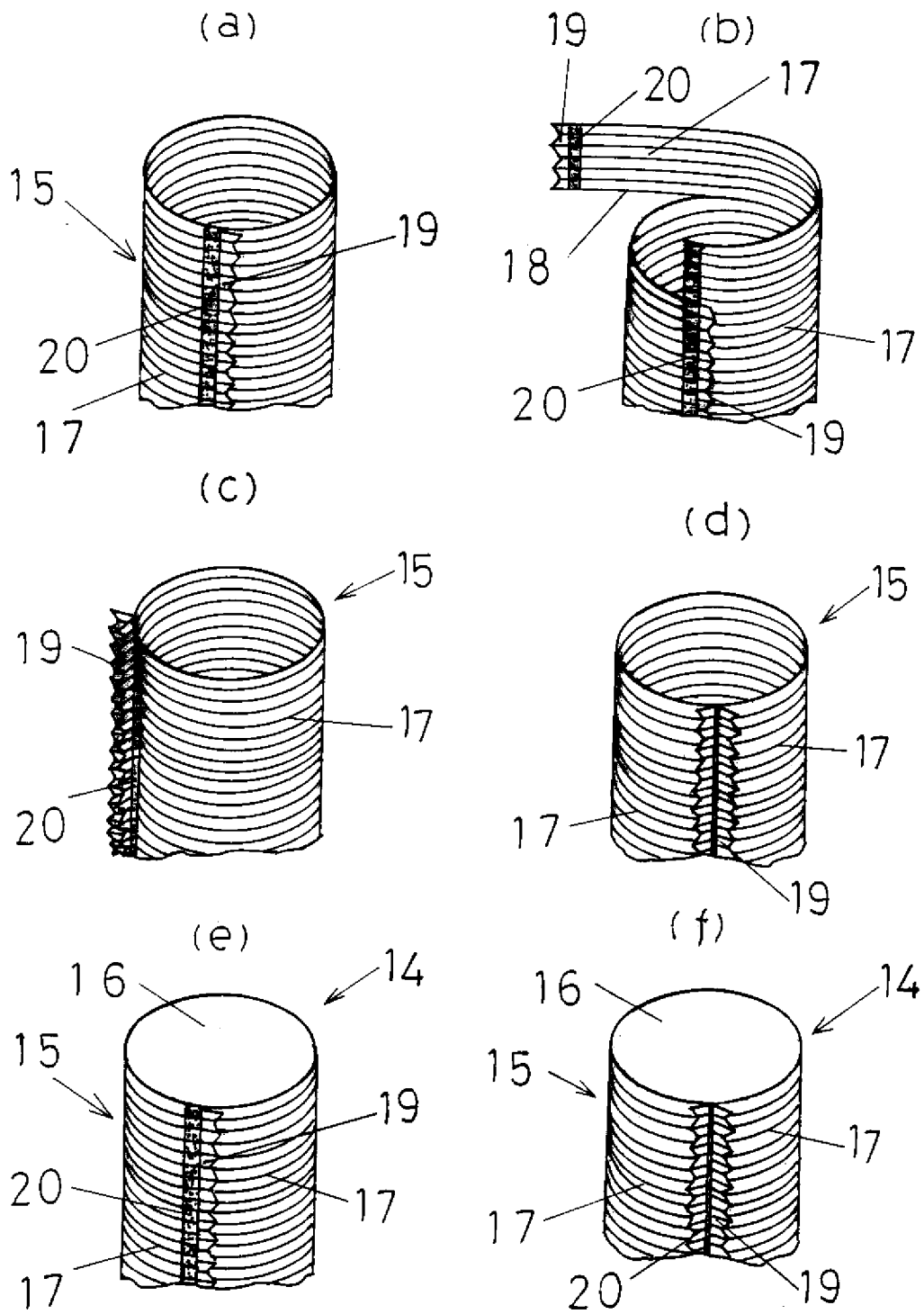
[図2]



[図3]



[図4]



[図5]

